

紀伊半島における観光と大台ヶ原

紀伊半島は、大台ヶ原を含めた吉野熊野国立公園や伊勢志摩国立公園をはじめ、多数の国定公園も存在しており、地形や自然の特徴を活かした豊かな観光資源が数多く存在する地域である。

以下に紀伊半島における主要な観光資源を取り上げ、それぞれの特性の比較を行う。

|      | 地域名         | 自然公園       | 海岸 | 山岳 | 文化歴史 | 温泉 | 特徴  | 圏域(大阪から) |
|------|-------------|------------|----|----|------|----|---|----------|
| 国立公園 | 伊勢志摩        | 伊勢志摩国立公園   | ●  |    | ●    |    | リアス式海岸<br>伊勢神宮  | 150km圏   |
|      | 大台ヶ原        | 吉野熊野国立公園   |    | ●  |      |    | 原生的な森林景観  | 100km圏   |
|      | 吉野熊野(三重)    | 吉野熊野国立公園   | ●  |    |      |    | 熊野灘の海岸<br>大杉谷   | 100km圏   |
|      | 大峰(北部・南部)   | 吉野熊野国立公園   |    | ●  | ●    |    | 修験道の拠点<br>山上ヶ岳は現在も日本唯一の女人禁制   | 100km圏   |
|      | 串本・潮岬       | 吉野熊野国立公園   | ●  |    |      |    | 海岸景観の探勝が主。海水浴、釣り、スノーケリング・スキューバダイビングも増加  | 150km圏   |
|      | 吉野山         | 吉野熊野国立公園   |    | ●  | ●    |    | 古社寺や南北朝にまつわる史跡等<br>サクラの名所   | 50km圏    |
|      | 勝浦温泉        | 吉野熊野国立公園   | ●  |    |      | ●  | 古くからの温泉地<br>南紀観光の一大拠点   | 150km圏   |
| 国定公園 | 鈴鹿          | 鈴鹿国定公園     |    | ●  |      |    | 標高1,000m前後の連峰   | 100km圏   |
|      | 室生・赤目・青山    | 室生赤目青山国定公園 |    | ●  |      |    | 変化に富む森林景観   | 100km圏   |
|      | 高野山・竜神・護摩壇山 | 高野竜神国定公園   |    | ●  | ●    | ●  | 真言密教の根本道場<br>高野龍神スカイライン<br>源平の合戦に敗れた平家の伝説<br>1300年の歴史<br>「大菩薩峠」、「日高川」など小説の舞台<br>「日本三美人の湯」 | 50km圏    |
|      | 白浜温泉・椿温泉    |            | ●  |    | ●    | ●  | 飛鳥・奈良時代からの名湯で日本三大古湯(白浜、有馬、道後)<br>海水浴・海岸景観<br>レジャー施設                                       | 100km圏   |

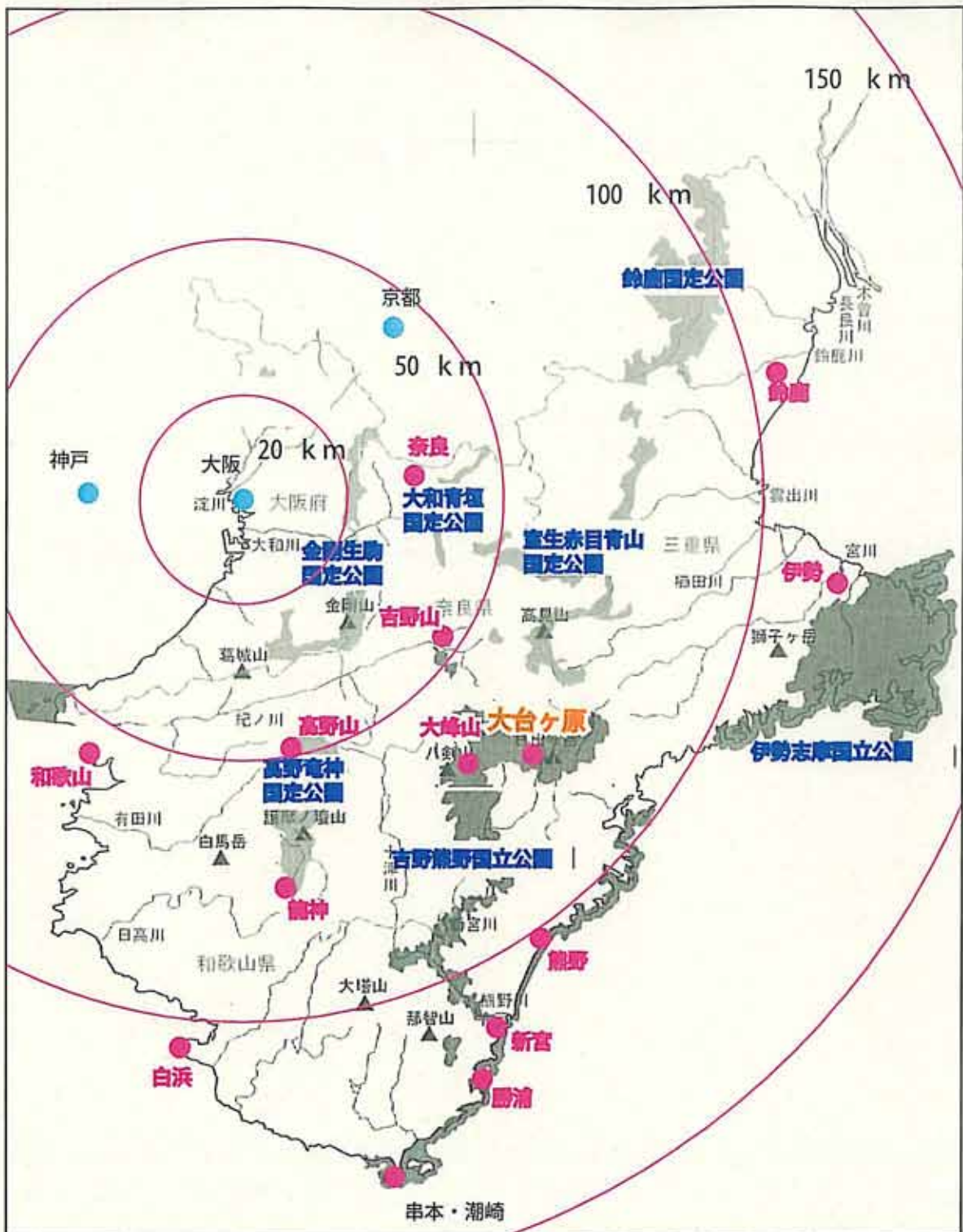
表 1 紀伊半島の主な観光地の特徴

これらの観光地をみると、さまざまな要素が複合されて形成されているといえる。紀伊半島の主な観光地には、海や山などの自然そのものと触れ合うものや、社寺や霊場など文化的・歴史的なもの、古くからの温泉地と位置付けられているものなどがあるが、それぞれ地域の自然資源を背景として成り立っているといえる。

これらの観光地を大きく海岸系、山岳系に分けると以下のようなになる。

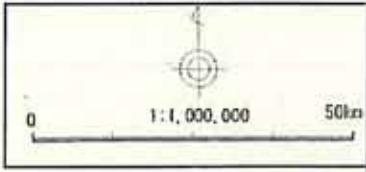
海岸系・・・伊勢志摩国立公園、吉野熊野国立公園(三重)、串本・潮岬、勝浦温泉、白浜温泉・椿温泉

山岳系・・・大台ヶ原、大峰(北部、南部)吉野山、鈴鹿、室生・赤目・青山、高野山・竜神・護摩壇山



凡例

- 国立公園
- 国定公園
- 観光地
- 主要都市



## ■紀伊半島の主な観光地の観光客数の推移

下の図は上記の各地区における観光客数の推移を示している。<sup>1</sup>これを見ると、昭和56年以降、観光客総数にそれほど大きな変化はあらわれていない。

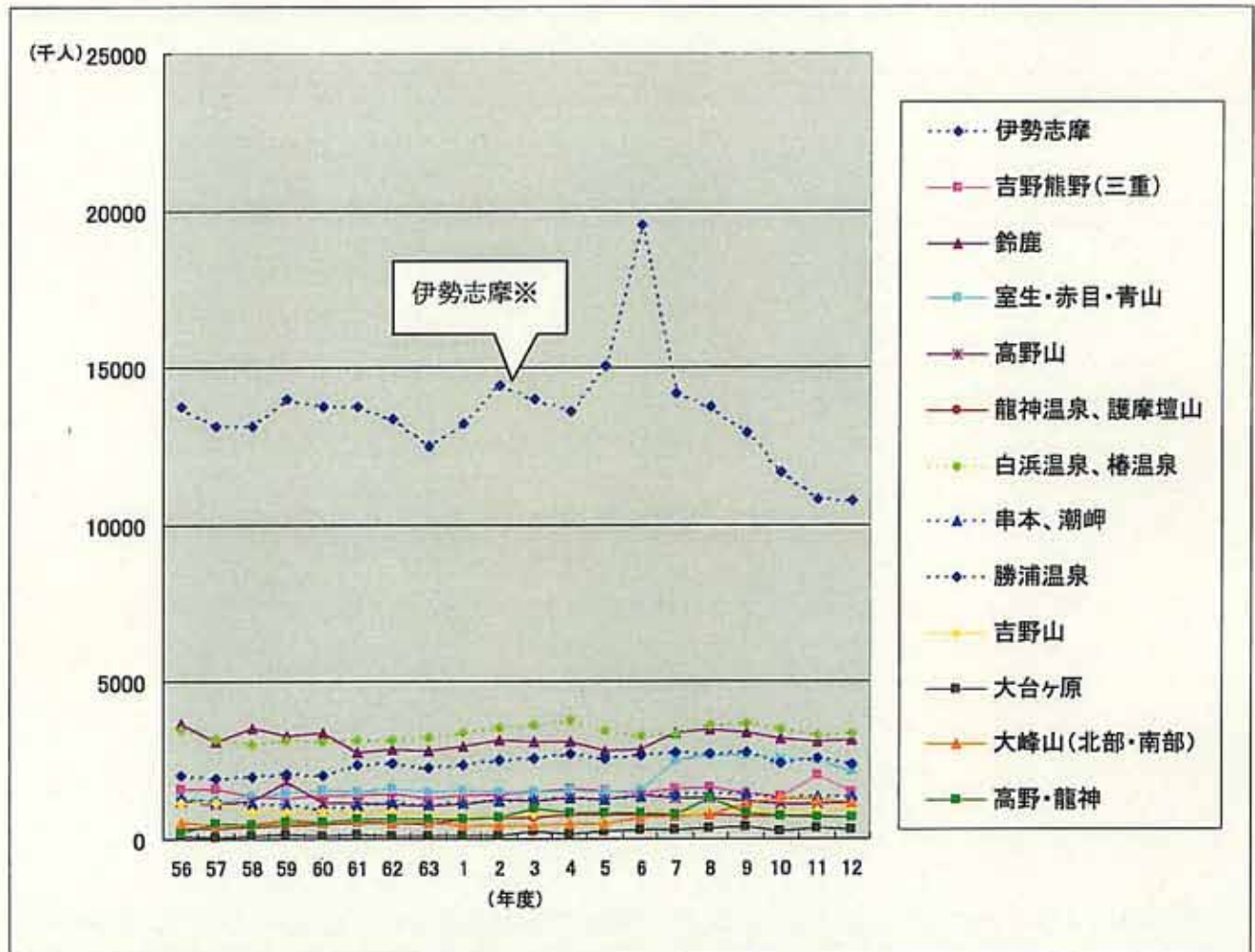


図1 紀伊半島の主な観光地における観光客数の推移

※三重県に関しては、平成7年分から入込推計方法を一部変更している。

<sup>1</sup> 参考文献：奈良県統計年間、和歌山県統計年鑑、三重県統計年鑑、「全国観光地観光客データブック」

## ■紀伊半島の主な観光地の観光客数の伸び率

図1で示した紀伊半島における主な観光地の昭和60年～平成12年までの15年間の伸び率を見たものが図2である。

これを見ると、大台ヶ原や大峰山、室生・赤目・青山などの山岳系観光地の伸びが飛躍的に大きいものに対し、それ以外の海岸系観光地は減少あるいは微増にとどまっていることが分かる。

これら2つの集計結果より、近年の紀伊半島における集客の伸び率の傾向としては、山岳系観光地の伸びが大きく、中でも大台ヶ原の伸び率は大変高いといえる。またこのことが、現在の大台ヶ原のオーバーユースによる問題や環境問題等を生じさせる要因の一つであると考えられる。

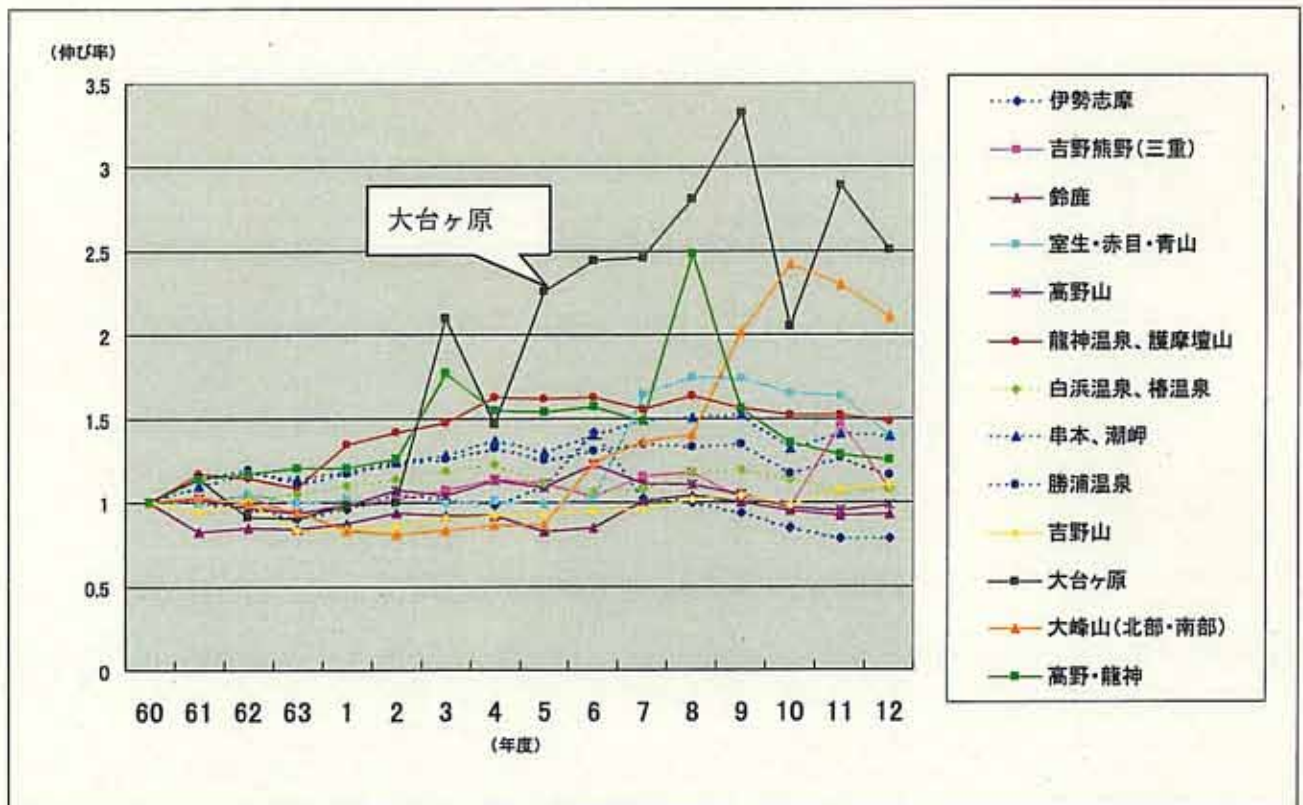


図2 紀伊半島の主な観光地における観光客数の伸び率

表2 大台ヶ原における利用に関わる主な経緯

| 西暦    | 和暦   |   |
|-------|------|---|
| 1606  | 慶長11 | 天台僧 丹誠上人入山の記録(北山由緒記)  |
| 1720頃 | 享保年間 | 幕府探葉使等、数回にわたり入山   |
| 1869  | 明治2  | 京都宇治興聖寺、開山のため入山。一年余で失敗(現開拓跡)  |
| 1874  | 明治7  | 大峯行者林実利、入山修行  |
| 1885  | 明治18 | 松浦武四郎、登山  |
| 1891  | 明治24 | 古川嵩、入山修行  |
| 1893  | 明治26 | 古川嵩、大台教会建設に着手、32年完成   |
| 1895  | 明治28 | 日出ヶ岳山頂に1等三角点標設置、博物学者白井光太郎、植物調査  |
| 1898  | 明治31 | 土倉庄三郎登山道(現苅場歩道)開設、大台教会近くに雨量観測所設置  |
| 1911  | 明治44 | オオダイガハラサンショウウオ発見  |
| 1917  | 大正5  | 四日市製紙(株)東大台の森林伐採着手。ヒノキを中心に約200haにわたって伐採(～大正11)                                  |
| 1920  | 大正9  | 農商務省山林局、気象観測所設置   |
| 1922  | 大正11 | 内務省、国立公園指定予備調査のため入山   |
| 1925  | 大正14 | 大台～河合間に有線電話開設   |
| 1928  | 昭和3  | 牛石ヶ原に神武天皇銅像建立   |
| 1936  | 昭和11 | 吉野熊野国立公園指定  |
| 1940  | 昭和15 | 同公園計画決定、大台ヶ原特別地域指定、大杉谷探勝路開設   |
| 1941  | 昭和16 | 関西急行(現近鉄)青年寮開設  |
| 1944  | 昭和19 | 大台教会の陸軍分遣隊駐屯  |
| 1955  | 昭和30 | 気象庁、気象観測所設置、大台ヶ原地区内のイトザサが開花・枯死  |
| 1958  | 昭和33 | 吉野山地区に管理員配置   |
| 1959  | 昭和34 | 伊勢湾台風によりトウヒ林風倒被害  |
| 1961  | 昭和36 | 大台ヶ原ドライブウェイ開通(有料)、第2室戸台風により森林風倒被害   |
| 1962  | 昭和37 | 大台荘完成   |
| 1964  | 昭和39 | 大台ヶ原集団施設地区指定  |
| 1965  | 昭和40 | 大台ヶ原ビジターセンター開設、本州製紙(株)森林伐採計画が具体化、自然林保護運動が活発化                                    |
| 1969  | 昭和44 | 大台ヶ原の自然を守る会発足   |
| 1973  | 昭和48 | 吉野熊野国立公園管理事務所発足   |
| 1973  | 昭和48 | 大台ヶ原地区内の野営利用禁止(奈良県)   |
| 1974  | 昭和49 | 奈良県が大台ヶ原地区671.55haを本州製紙(株)から買収、奈良県が大台ヶ原集団施設地区24haを本州製紙(株)から寄付採納、大台ヶ原地区美化促進協議会発足 |
| 1975  | 昭和50 | 奈良県が大台ヶ原地区142.41haを宮本重信氏から買収  |
| 1980  | 昭和55 | ユネスコがM.A.B.計画生物圏保護地域に指定   |
| 1981  | 昭和56 | 大台ヶ原ドライブウェイ一般県道に移管  |
| 1982  | 昭和57 | 環境庁が「大台ヶ原原生林における植生変化の実態と保護管理手法に関する調査」を奈良県自然環境研究会に委託                             |
| 1984  | 昭和59 | 環境庁が「特定自然環境地域保全計画策定調査」を日本野生生物研究センターに委託  |
| 1984  | 昭和59 | 奈良県が昭和49年買上地を環境庁に移管   |
| 1985  | 昭和60 | 奈良県が昭和50年買上地を環境庁に移管   |
| 1986  | 昭和61 | 環境庁がトウヒ林保全対策事業を開始   |
| 1988  | 昭和63 | 第1期パークボランティア講習会開催   |
| 1988  | 昭和63 | 吉野熊野国立公園の公園計画再検討を終了、ニホンジカ生息動態調査を国立公園協会の補助で実施                                    |
| 1992  | 平成4  | 大台ヶ原ビジターセンター開設  |

図3 大台ヶ原利用の推移

